

# 謹賀新年



## 「つながり」を 原点として

大和郡山市長

上田 清

あけましておめでとうございます。

さて3年がかりで発掘、石垣の積み直し、展望施設の整備に取り組んできた郡山城天守台。

いよいよ3月26日(日)から一般公開の運びとなりました。接着剤などを使わず、400年あまりにわたり風雪に耐えてきた石垣はまさに郡山市民の誇りであり、その誇りが市内外の人々の共感を生み出す舞台づくりを進めるとともに、大切な歴史的遺産として後世にしっかりと受け継いでいかなければならないと考えているところです。

一方、県と協定を結んだ近鉄郡山駅周辺のまちづくりは、昨年の基本構想から具体的な基本協定の策定に入っていきますが「城下町の風情を活かし、いきいき暮らせるまちづくり」を合言葉に、アイデアを出し合っていきたいと思います。

同じく協定を結んだ昭和工業団地のまちづくりについては、さまざまな方々のご意見を聞かせていただく中で、保育環境の整備や企業間の交流・連携の場づくりなどの必要性が見えてきました。

予想以上に利用台数が伸びている大和まほろばスマートインターチェンジや下ツ道ジャンクションに直結する立地条件も活かし、昭和工業団地のより一層の活性化に取り組んでまいります。

ところで昨年は、学校給食で治道小学校、地域コミュニティで平和小学校、PTA活動で片桐中学校がそれぞれ文部科学大臣賞を受賞しました。

いずれも家庭・学校・地域の連携やつながりが大きな力を発揮した結果ですが、地域福祉を含め、地域を考えるヒントがそこにあるのではないかと。

そうしたことを踏まえながら、今年も職員一同、力を合わせて頑張ってまいりますので、引き続きご支援、ご協力のほどお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 「新年を迎えて」

大和郡山市議会議員

榎日直秋

新年明けまして、おめでとうございます。

市議会を代表いたしまして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、ブラジル・リオで開催されたオリンピックで、日本の多くの若者が活躍し、私達に大きな喜びと元気を与えてくれました。4年後の東京オリンピックでは、日本中が沸き上がり、世界の人々に快哉していただける大会となることを期待しております。

一方で、昨年は、熊本地震を始めとする地震が頻発しました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げますと共に、改めて災害への備えを充実していかねばならないと痛感したところです。本市では、小中学校に続き、昨年、市内8幼稚園の耐震化工事を実施し、課題の解決に向け一つ前進しました。また、同じく昨年に、今後10年間の本市のまちづくりの基本方針を示す「第4次総合計画」や、将来の人口目標に向け、少子高齢化や人口減少の克服、雇用の創出、地域経済の発展などの戦略をまとめた「まち・ひと・しごと総合戦略」が策定され、次世代のための魅力と活力にあふれるまちづくりが進んでおります。

リニア中央新幹線につきましては、東京-名古屋間の2027年開業を目指し着々と建設が進められておりますが、国の施策により、大阪までの全線開業を2045年から最大8年間前倒しすることが決まりました。本市への中間駅設置という夢の実現に向けた活動も、ますます重要になってまいります。

市議会といたしましても、市民の皆様が安心して暮らせる住み良いまちづくりの実現に向けて、市当局と連携を深めながら、鋭意努力してまいりますので、今後ともご支援ご協力を賜ります様、お願い申し上げます。

最後に、新しいこの一年が、皆様にとりまして幸多き年となりますよう祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。